

### 蒲生川支流下代官沢(仮称)

1995年7月29日

L)

録

小金井山より真東に下降すると、すぐ小金井沢の源頭に出た。ナメの斜面が、滑り台のようにまっすぐに続いている。滝に近いナメの斜面を過ぎると、スラブ状となった3段30mの滝が現われた。中間部の草付きで区切って、2回の懸垂下降でクリアした。ナメ滝を越えると、15mの滝が2回現われるが、それぞれ懸垂下降する。

蒲生川に出た後はしばらく川ぞいに下り、左岸より流れ込んでいる沢を登り、林道に出て下降終了とする。(記・イ)

【タイム】 小金井山(11:25)→3段30m滝(12:35)→蒲生川(14:15)

### 蒲生川支流持場沢

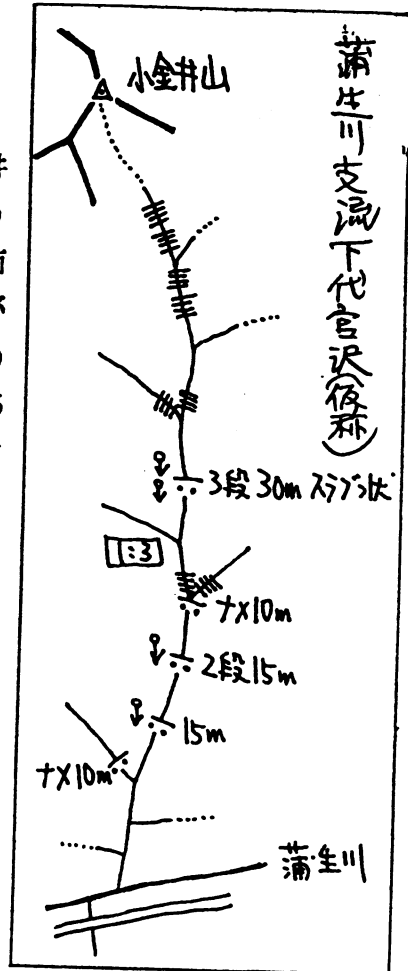
1995年7月29日

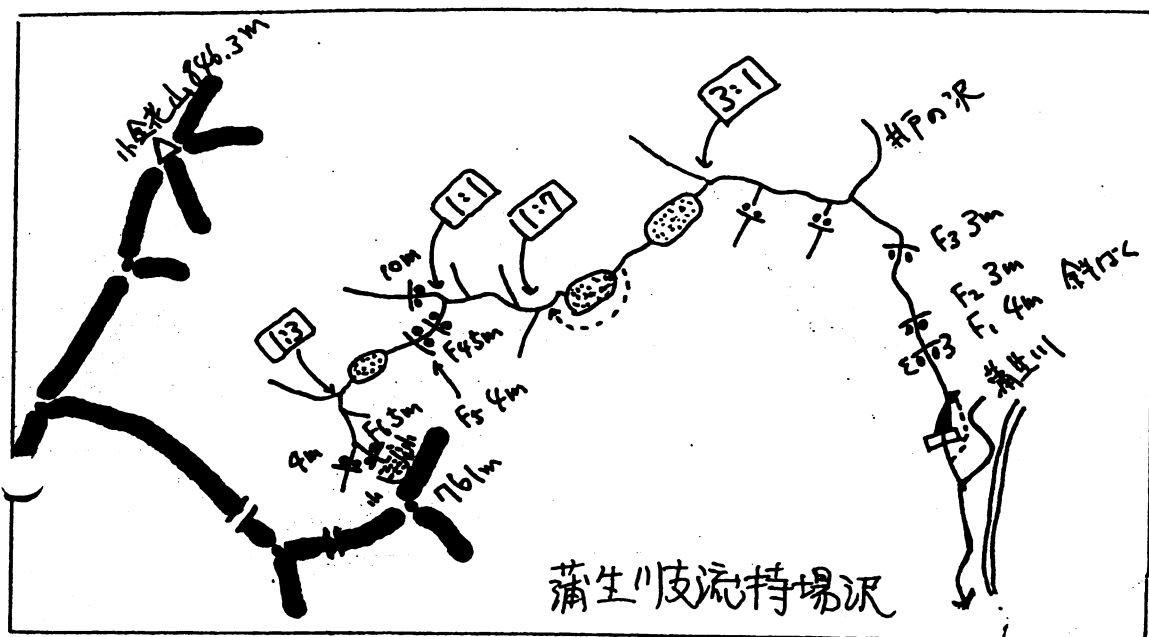
L

蒲生川を渡渉して持場沢に入る。出合からすぐ大きな堰堤があり、ダム状になっている。左岸を伝い、浅くなった所で沢に降りる。F<sub>1</sub>は青い岩のきれいな斜瀑。F<sub>2</sub>はショルダーで乗り越える。F<sub>3</sub>はザイルを出し、右岸から越えた。

8時35分、井戸の沢に入るパーティと別れ、持場沢へ。左岸から支沢が合流した先に長さ30mほどのスノーブリッジが現われた。一人ずつ素早く通過する。少し進むとまたスノーブリッジ。鈴木さんが偵察に出るが危ないとの判断で、右岸を高捲く。しかしなかなか下降できなかった。

10時15分、二俣。暑さで少しバテてくる。直角にカーブした連瀑を越えるとまたスノーブリッジ。ここは下をくぐりぬける。次の二俣を左に入ると、流れがだんだん細くなる。F<sub>6</sub>5mを越すとスラブとなり、岸辺の草木を頼りに登る。日に焼けた岩の上を歩き続けたので、体力の消耗が激しい。沢の流れが途絶えた後は





ヤブこぎをして尾根に出る。

(記・)

[タイム] 持場沢出合(7:15)→井戸の沢出合(8:35)→二俣(10:15)→右沢分岐(10:40)→尾根(12:10)

### 蒲生川支流井戸の沢 1995年7月29日

林道のゲート手前に車を置き、入渓する。すぐに砂防ダムが現われ、右側を捲く。釣人が入っているらしく、踏跡がついている。沢に戻るとしばらくは河原歩きが続く。3m滝を越えるとすぐに大岩が重なったような滝(3m)に出会う。ここは持場沢パーティの鈴木さんに、お助けロープを出してもらい、無事通過する。再び河原歩きとなって持場沢との分岐となる。小休止し、持場沢に入るパーティと別れ、小金井山に突き上げる井戸の沢の遡行を続ける。

しばらく河原歩きが続く。やがて4段10mの滝。難なく越える。このあと2つの小滝を越え2つ目の二俣を右に入るとしばらく進むと、早々に水が濁ってしまった。そのまま沢をつめ、最後の草付き混じりのスラブを登ったが、小金井山のやや南側に出てしまった。ヤブこぎにうだりながら北上し、なんとか小金井山のピークに立つ。ピークにはプレート等はなく、胸ぐらいのヤブの中に三角点があ